



# 5

## 情報社会を担う 企業として、より確かな 情報セキュリティを実現

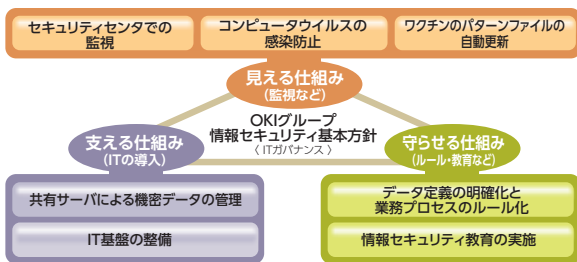
### OKIグループの情報セキュリティの 取り組み

情報システムの統合化やモバイル化など、企業活動における情報技術への依存度が高まるなか、情報セキュリティの確保は企業にとって必要不可欠な対応となっています。

OKIグループは、情報社会を担う企業として、情報セキュリティの重要性を早くから認識し、お客様一人ひとりに安心をお届けするために情報セキュリティ商品・サービスを提供してきました。同時に、OKIのすべての商品・サービスをお客様に安心してご利用いただけるよう、自らの情報セキュリティレベルを高めるためのさまざまな取り組みを実施しています。2002年度に制定した情報セキュリティ基本方針のもと、下図に示す3つの仕組みでセキュリティ対策を推進しているほか、ISMS<sup>※</sup>の認証も順次取得しています(p23参照)。

また2007年度に情報漏洩対策を強化するため設置した情報セキュリティ委員会のもと、部門ごとに活動計画を策定して施策を展開しています。実施状況は委員会事務局が継続的に現地実査(モニタリング)で確認しており、2009年度は4拠点の実査を行いました。

● 情報セキュリティ「3つの仕組み」



※ISMS : Information Security Management System

### 関係者のセキュリティ意識の 向上をめざして

OKIグループでは、情報セキュリティを最終的に担うのは社員一人ひとりであると考え、「守らせる」仕組みであるルールの制定やその徹底、情報セキュリティ教育の実施に注力しています。その一環として毎年、10月の「OKI防災週間」に合わせて、派遣社員を含めた全従業員を対象とした情報セキュリティ斉点検を実施しています。2009年度は、点検項目を見直し、曖昧な表現の排除などの改善を図りました。これにより、たとえばUSBメモリを業務上利用している従業員数など、施策の改善に活用できるデータがより正確に取得できるようになりました。

また、より高度な情報セキュリティマネジメントをめざして、お取引先にも情報セキュリティの強化を継続的にお願いしています。重要秘密情報を提示しているお取引先には、OKIが作成したチェックリストに基づいたセルフチェックを実施していただき、お取り組み状況や課題の共有化を図っています。2009年度は、回答結果を点数化することにより、お取引先の施策の推進度合いを前年度との比較で客観的に確認しました。その結果、特に情報へのアクセス制限など、実効性の高い施策に関するポイントが向上するなど、お取り組み状況が着実に進展していることが確認できました。

今後もお取引先のご協力を得ながら次への対策を進めるとともに、OKIグループ側のさらなるセキュリティ意識向上を図り、サプライチェーン全体での情報セキュリティレベルの向上をめざしていきます。

### Column

#### 高いセキュリティを実現するUSB型シンクライアント 「Safarioパンドミックパック」

シンクライアントは、サーバ側でアプリケーションソフトやファイルなどの資源を管理し、クライアント側には最低限の機能しか持たないシステムです。端末側にデータを持たない特性が情報漏洩対策にもつながることから、近年注目を集めています。OKIコンサルティングソリューションズは、自宅などのPCを簡単にシンクライアント化できるUSBタイプのシンクライアント「Safarioパンドミックパック」を開発、2009年11月より販売を開始しました。同パックでは、センター側に設置する「Safario」ゲートウェイ/ゲートマネージャのセキュリティを強化しており、自宅のPCをシンクライアント化し「Safario」トークン



「Safario」トークン

て会社のPCと同様に利用することができます。オフィスで利用している情報通信環境をそのまま利用することもできることから、新型インフルエンザ流行時など社員が出勤できない場合にも、事業の継続を図ることが可能になります。